

令和8年度 自ら学び 自ら考え 自ら行動する子を育てる



松林小だより



令和8年7月17日

第5号

茅ヶ崎市立松林小学校 校長 下反 達二

「楽しい夏休みに」

子どもたちが育てている朝顔が太陽に向かって花を咲かせ、いよいよ待ちに待った夏休みが始まります。4月からこれまで、子どもたちは学年やクラスの仲間とともに、学習に運動に遊びに、本当によく頑張りました。保護者の皆様、地域の皆様には、日々の登下校の見守りから学校行事へのご協力まで、本校の教育活動を温かく支えていただきましたことに、心より深く感謝申し上げます。

さて、明日から44日間、チャイムの鳴る日常から離れ、長い休みに入ります。子どもたちにとって学校だけでは得られない、かけがえのない成長のチャンスです。夏休みには子どもたちの心を豊かに育てる「四つの良さ」があると考えています。

一つ目は、「自分の時間を自分でつくる良さ」です。学校生活のような決められた時間割はありません。「朝起きてから夜寝るまで、今日という一日をどう過ごすか」を子ども自身が考え、選び、実行する。時には計画通りにいかない失敗もあるでしょう。しかし、その試行錯誤こそが、子どもたちの主体性と自立心を育む大切な一歩となります。

二つ目は、「五感を使って本物の体験に触れる良さ」です。教科書やタブレットの画面のなかで得る知識も大切ですが、夏の強い日差しを浴び、風の匂いを感じ、せみの声を聴き、冷たい谷川の水に触れるといった「本物の体験」に勝るものではありません。自然のなかで心が動いた感動や驚きは、子どもたちの知的好奇心の芽を伸ばし、夏以降の学びを支える確かな原動力へと変わっていくはずです。

三つ目は、「家族や地域とのつながりを深く実感できる良さ」です。普段は忙しくてゆっくり話せないご家族と食卓を囲む時間や、地域の伝統的な行事への参加は、子どもたちの心に「自分は大切にされている」という大きな安心感を与えます。また、家庭内での小さなお手伝いを毎日続け、「ありがとう、助かったよ」と声をかけられる経験は、家族の一員としての自信となり、なにより自己肯定感を育みます。

四つ目は、あえて「立ち止まり、回り道をする良さ」です。子どもたちは、いつもは、何かと忙しい日常を送っています。だからこそ、この夏は「何もしない贅沢な時間」や、一見無駄に思えることに熱中する「心の余白」を大切にしてほしいのです。虫捕りをして何度も逃げられたり、ものづくりが上手くいかずに悩んだりするような、遠回りの時間のなかにこそ、物事をじっくり考える力としなやかな心が育まれます。

これらの良さは、ご家庭や地域の皆様の温かい見守りがあって初めて、子どもたちのなかで輝き始めます。日々の生活の中にある小さな発見や、何気ない会話のなかにこそ、宝物がたくさん詰まっています。



どうか熱中症など健康と安全には十分にご留意いただき、ご家族でかけがえのない素敵な夏をお過ごしください。休み明け、心も体も一回り大きくたくましく成長した子どもたちと、元気な笑顔で再会できることを、教職員一同、心から楽しみにしております。

個人面談ありがとうございました

保護者の皆様にはお忙しい中、個人面談にいらしていただきありがとうございました。学校でのお子様の様子やご家庭での様子を共有し、今後のお子様の成長につながっていくことを願っております。